

外国人材就労意識調査

中間報告書

令和元年 11 月

広 島 県

1. 調査概要

1. 調査概要

(1) 調査目的

広島県内企業で就労する技能実習生や、広島県内教育機関に通う留学生等の今後の就労意向や就労する場合の条件、課題、現在の生活実態等を調査し、今後の取り組みにおける検討の基礎資料を作成することを目的とする。

(2) 調査対象

- ①広島県内の企業で就労する技能実習生 2,441 人
- ②広島県内の大学及び日本語教育機関に通う留学生 2,064 人
(大学：1,085 人 日本語教育機関：979 人)
- ③公益財団法人ひろしま国際センターの相談窓口への来所者及びその他一般外国人 86 人

(3) 回収状況

- ①技能実習生：500 人
 - ②留学生（在留資格が「留学」かつ日本語教育機関または専門学校に通う留学生のみ）：318 人
- ※上記の回収状況は、本報告書に反映した調査票の回収状況を示している。

(4) 調査方法

郵送によるアンケート調査

(5) 調査期間

令和元年 9 月 4 日～令和元年 10 月 24 日

※ただし、本報告書に記載されている集計データは、令和元年 9 月 25 日時点の回答調査票を基にした速報値であり、最終集計開始まで回収した調査票を基に作成される最終報告書の数値とは一致しない。

(6) 実施機関

株式会社日本統計センター

(7) 調査結果の見方

調査結果の数値は、回答率(%)で表示している。回答率(%)の母数は、その質問項目に該当する回答者の総数であり、その数はNで示している（各質問における無回答者を除外した回答者の総数を示している）。

回答率(%)については、小数点第 2 位以下を四捨五入し、小数点第 1 位までを表示している。このため、その合計数値は必ずしも 100%とはならない場合がある。

(8) 備考

留学生については、在留資格が「留学」かつ、留学先について「日本語教育機関」または「専修学校」と回答した対象者のみ（318 人）を集計対象としており、大学等への留学生および「留学」以外の在留資格保有者については最終報告書にて結果をまとめる。

2. 調査結果の概要

I. 就労環境・就労に対する意識

(1) 職場での課題について

技能実習生及び日本語教育機関・専修学校への留学生（以下、「日本語学校生等」）に対して職場（日本語学校生等についてはアルバイト先）での困りごとを尋ねたところ、双方とも「困っていることはない」がそれぞれ3～4割程度を占め最も高い一方、「方言がわからない」がそれぞれ25%前後とそれに次ぐ結果となった。

方言以外の仕事に必要な日本語については、「聞き取れない」「話せない」がそれぞれ概ね10%台前半、「読めない」「書けない」が10%未満にとどまるなど、仕事上の日本語に対する不安をそれほど抱いていない傾向となった。しかしながら、技能実習生及び日本語学校生等とも日本語を学習する意欲は高く、技能実習生では86.9%、日本語学校生では97.8%が、今後も学習を継続したいと回答している。

(2) 今後の日本における就労意向について

技能実習生、日本語学校生等とも、実習終了後や修了後に日本で働くことを希望する者が多数を占めているが、技能実習生の79.3%に対して、94.0%と日本語学校生等が一段高い比率となった。就労に係る在留資格については、特定技能に関する知識を有する者は技能実習生が75.1%と高く、活用したい者も56.7%いたのに対し、日本語学校生等は特定技能について知識を有する者が約半数にとどまり、65.8%が専門的・技術的分野の在留資格での就労を希望するなど、来日目的やキャリアに対する意識等の違いが出ていると考えられる。

働く企業を選ぶ基準については、「技術の習得や自分の技術が活用できる」が技能実習生、日本語学校生等とも5割を超えて最も高くなっているほか、技能実習生については「会社の人が親切」、日本語学校生等については就労場所や居住場所を重視するなど、必ずしも賃金の高さだけが決め手ではないという傾向となった。なお、就労場所や居住場所を重視すると選択した回答者のうち、技能実習生、日本語学校生等とも半数以上が広島県内を希望する結果となり、東京や大阪の大都市圏を大きく上回った。

II. 生活環境・地域交流

(1) 生活上の課題について

技能実習生では、「困っていることはない」が33.1%と最多であったが、職場での課題同様、「方言がわからない」が25.8%とこれに続いている。日本語学校生等では、その比率が25.6%と最も回答が多い項目であり、標準語の学習のみでは対応できない、地方ならではの現状が現れている。このほか、「地域のひととの日本語でのコミュニケーションが取れない」を挙げる者がそれぞれ約2割いる結果となった。

生活上の困りごとにおける相談相手については、技能実習生が「会社の同じ国の人」と「監理団体の人」がそれぞれ5割近く、日本語学校生等では「日本語教室や日本語学校の先生」が6割近くに達しており身近な存在の人を頼る傾向がみられる。

(2) 生活関連情報のニーズについて

技能実習生、日本語学校生等とも7割以上がスマートフォンを所有し、インターネットに接続されたPC等を使用できる環境にある者も含めると、9割以上がインターネットから情報を得られる環境にあることがわかった。求めている生活関連情報は、「災害など緊急の時の情報」、「医療（病院、薬局等）の情報」及び「母国語での情報」が上位を占め、日本語学校生等については、これらに加え「日本語教室の情報」のニーズも高いという結果となった。

(3) 地域との交流や広島県の良さについて

近所の日本人と会話する頻度は、技能実習生の85.5%、日本語学校生等の77.5%が「近所の日本人とあいさつ程度」もしくは「会話がないう」という結果となった。しかしながら、いずれも約9割が近所の日本人と親睦を深めたいと考えており、その手段として「近所の行事（祭りなど）に参加」が半数以上と最も希望が多く、日本語学校生等では「自国の文化の紹介」も45%と上位に来ている。

技能実習生と日本語学校生等が感じている広島県の良さについては、「所属する会社や学校の人が親切」「東京などに比べて物価が安い」が、技能実習生については58.9%と39.1%、日本語学校生等についてはそれぞれ48.7%と56.8%と、最も多い回答となった。

3. 調査結果（技能実習生）

3. 調査結果（技能実習生）

(1) 回答者属性

①性別

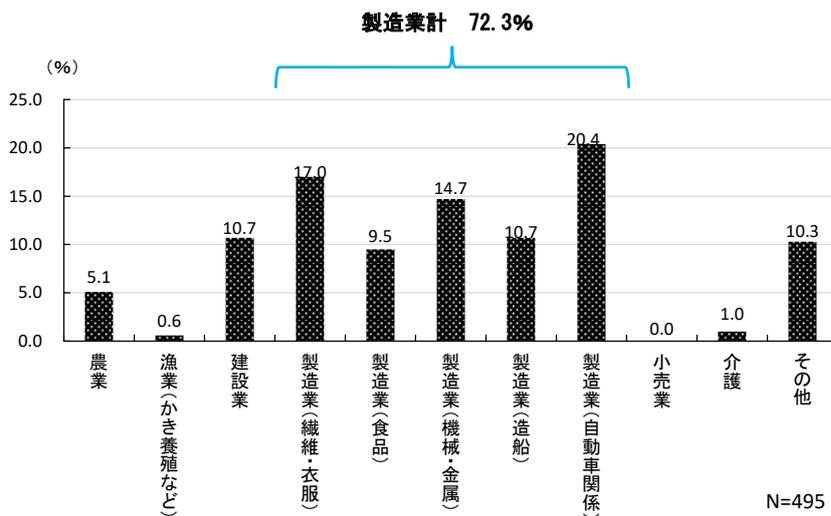
	サンプル数	男	女
実数	498	242	256
構成比	100.0	48.6	51.4

②年齢

	サンプル数	20歳未満	20歳～24歳	25歳～29歳	30歳～34歳	35歳～39歳	40歳以上
実数	496	12	151	144	125	50	14
構成比	100.0	2.4	30.4	29.0	25.2	10.1	2.8

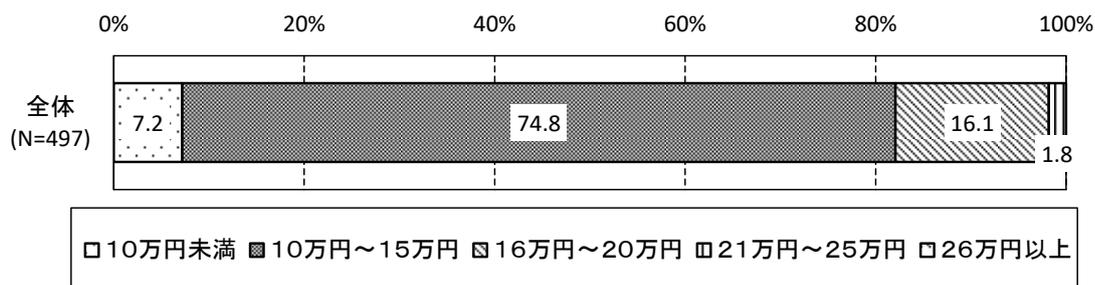
③実習先の業種

サンプル数	農業	漁業(かき養殖など)	建設業	製造業(繊維・衣服)	製造業(食品)	製造業(機械・金属)	製造業(造船)	製造業(自動車関係)	小売業	介護	その他
495	25	3	53	84	47	73	53	101	0	5	51



④1か月の給与額（手取り額）

サンプル数	10万円未満	10万円～15万円	16万円～20万円	21万円～25万円	26万円以上
497	36	372	80	9	0

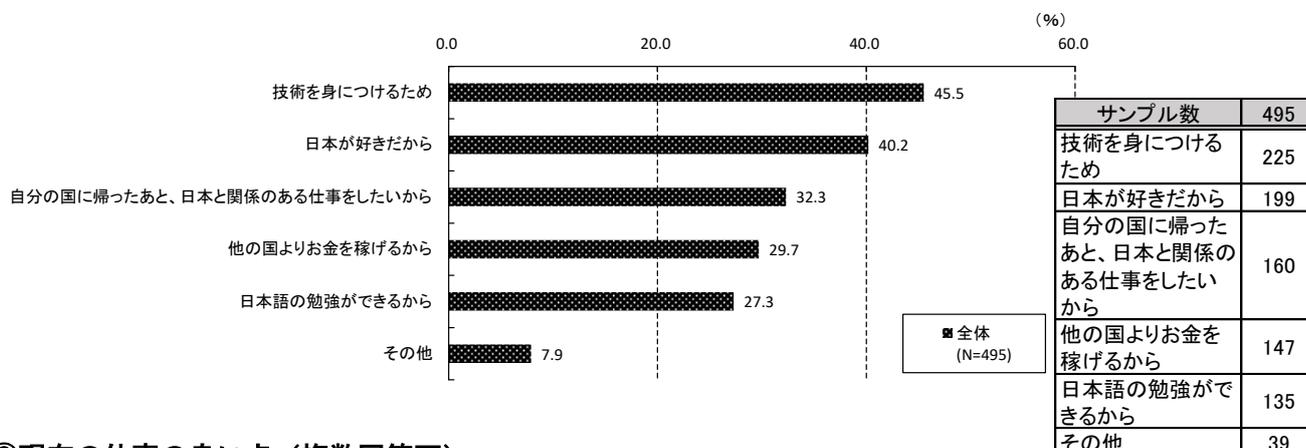


3. 調査結果（技能実習生）

(2) 現在の職場における就労環境について

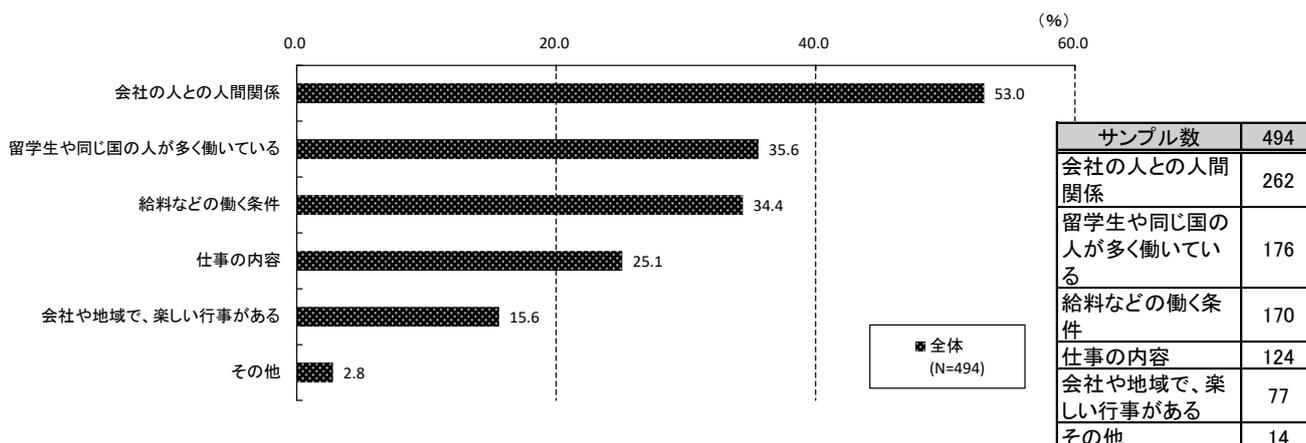
①日本を働く場所を選んだ理由（複数回答可）

「技術を身につけるため」が45.5%で最も高く、次いで「日本が好きだから」が40.2%、「自分の国に帰ったあと、日本と関係のある仕事をしたいから」が32.3%となった。



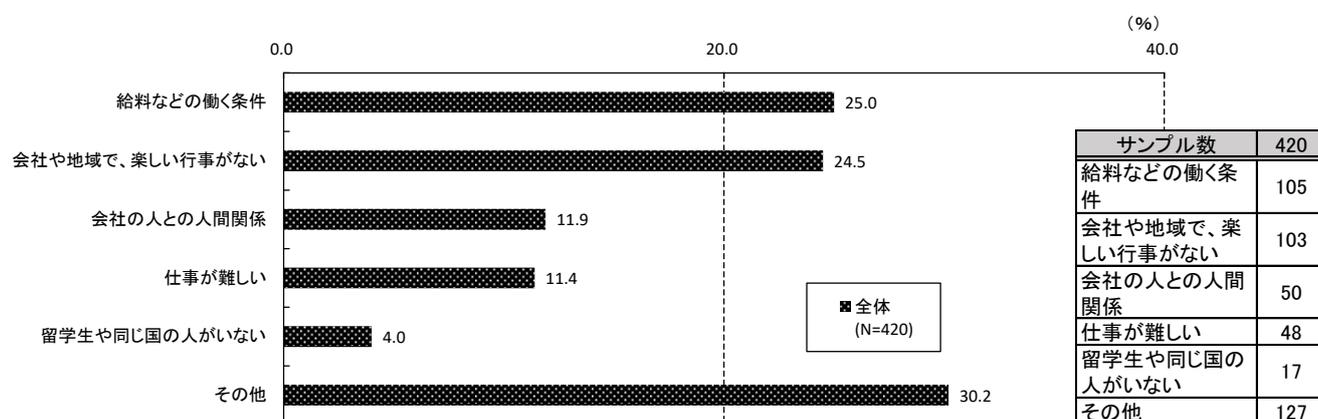
②現在の仕事の良い点（複数回答可）

「会社の人との人間関係」が53.0%で最も高く、次いで「留学生や同じ国の人が多く働いている」が35.6%、「給料などの働く条件」が34.4%となった。



③現在の仕事の嫌な点（複数回答可）

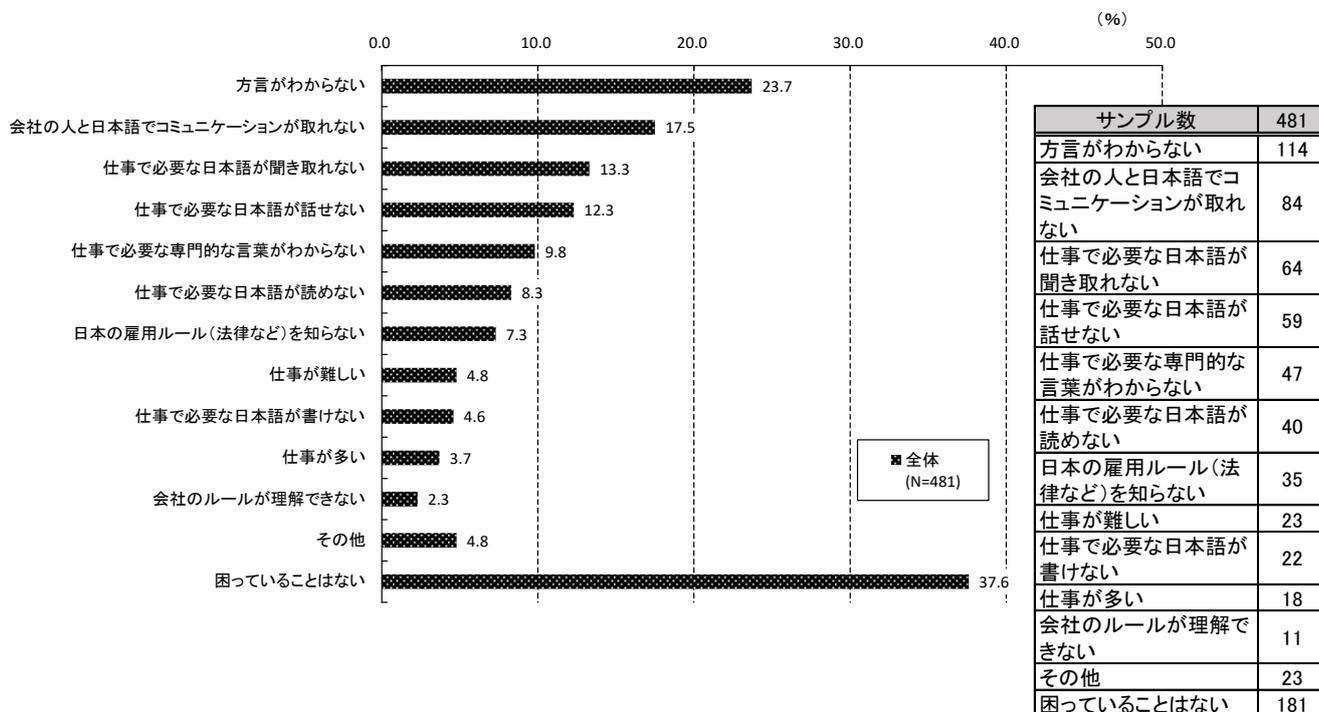
「その他」が30.2%で最も高くなっているが、「給料などの働く条件」が25.0%、次いで「会社や地域で、楽しい行事がない」が24.5%と高くなっている。



3. 調査結果（技能実習生）

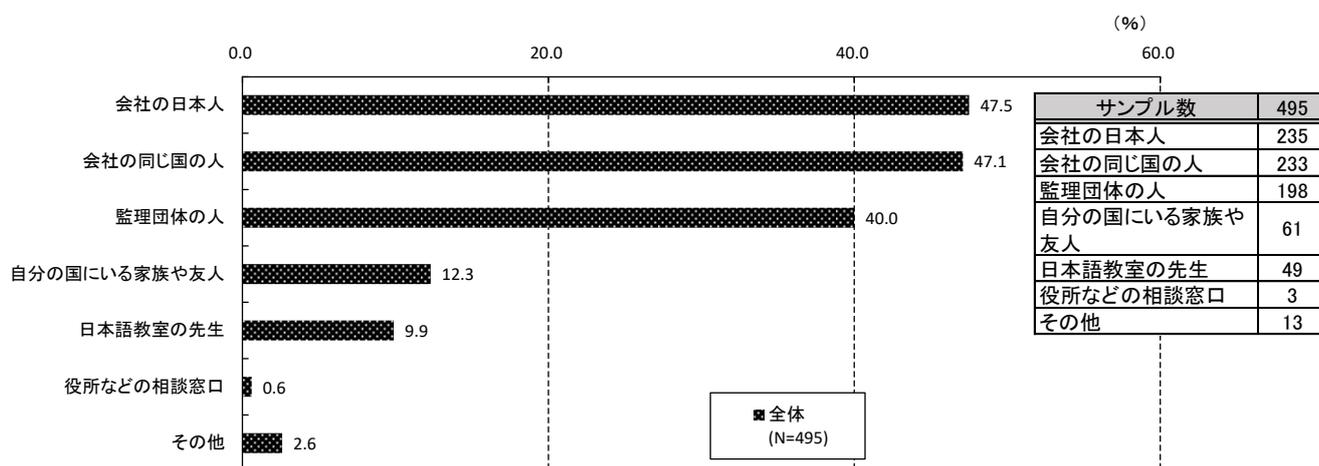
④現在の職場で困っていること（複数回答可）

「困っていることはない」が 37.6%で最も高くなっている一方で、「方言がわからない」が 23.7%、「会社の人と日本語でコミュニケーションが取れない」が 17.5%と高くなっている。



⑤現在の職場で困っている際の相談相手（複数回答可）

「会社の日本人」が 47.5%で最も高く、次いで「会社の同じ国の人」が 47.1%、「監理団体の人」が 40.0%となった。



⑥特定技能の認知度

「知っている」が 75.1%で、7割以上の技能実習生が特定技能を認知している結果となった。

	サンプル数	知っている	知らない
実数	485	364	121
構成比	100.0	75.1	24.9

3. 調査結果（技能実習生）

⑦技能実習終了後の就労意向

「できれば働きたい」が79.3%で、約8割の技能実習生が技能実習終了後も継続して日本での就労意向がある結果となった。

	サンプル数	できれば働きたい	働きたくない
実数	484	384	100
構成比	100.0	79.3	20.7

⑧就労する場合に活用したい在留資格（複数回答可）

「特定技能」が56.7%で最も高く、次いで「専門的・技術的分野（技術、人文・知識・国際業務）」が23.8%となっており、特定技能活用の意向が高い結果となった。

	サンプル数	特定技能	専門的・技術的分野 （技術、人文・知識・国際業務）	その他の在留資格	在留資格について わからない
実数	462	262	110	38	107
構成比	100.0	56.7	23.8	8.2	23.2

⑨今後の日本語の学習意向

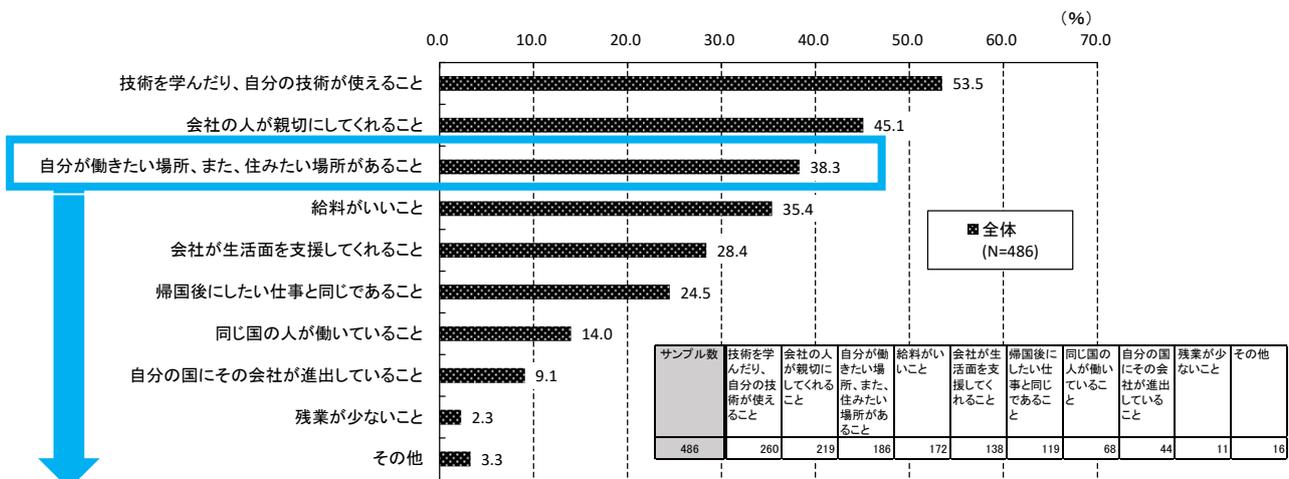
今後も日本語を「勉強したい」が61.6%で最も高く、会社の支援や日本語教室に通える環境があれば「勉強したい」人も含めると、9割近くの技能実習生に日本語学習意欲があるという結果となった。

	サンプル数	勉強したい	会社が機会をつくれれば勉強したい	近くに日本語教室があれば勉強したい	勉強したくない	その他	わからない
実数	497	306	80	46	15	4	46
構成比	100.0	61.6	16.1	9.3	3.0	0.8	9.3

(3) 今後の就労において求める条件等

①働く企業を選ぶ際に重視する条件（回答は3つまで可）と、希望する就労・居住地域

「技術を学んだり、自分の技術が使えること」が53.5%で最も高く、次いで「会社の人が親切にしてくれること」が45.1%、「自分が働きたい場所、また、住みたい場所があること」が38.3%と、「給料がいいこと」（35.4%）と並んで重視する条件の上位を占めた。



また、働く会社の選択基準において、「自分が働きたい場所、また、住みたい場所があること」を選択した回答者に希望地域をたずねたところ、「広島県内」が62.0%で東京・大阪を抑え6割以上を占めた。

	サンプル数	広島県内	東京	大阪	その他
実数	184	114	47	20	3
構成比	100.0	62.0	25.5	10.9	1.6

3. 調査結果（技能実習生）

②就労希望業種とその選択理由（それぞれ回答は3つまで可）

7割の技能実習生が現在の実習先と同じ分野の業種で引き続き就労を希望する一方、実習先の実業以外では、「製造業（食品）」、「製造業（自動車関係）」、「外食業」や「製造業（電気・電子関連）」に人気が集まる結果となった。

業種	今後就労する場合の希望業種																		現在と同業種への就労希望者比率
	サンプル数	農業	漁業（かき・養殖など）	建設業	繊維・衣服製造業	食品製造業	機械・金属製造業	電気・電子関連製造業	造船製造業	自動車関係製造業	自動車関係製造業（その他）	小売業	宿泊業	外食業	介護	ビルクリーニング	その他のサービス	その他	
全体	488	40	14	43	94	127	84	66	69	138	27	35	16	75	31	11	19	23	346
上段：実数、下段：%	100.0	8.2	2.9	8.8	19.3	26.0	17.2	13.5	14.1	28.3	5.5	7.2	3.3	15.4	6.4	2.3	3.9	4.7	70.9
実習先の業種	25	20	0	1	3	5	1	2	0	2	0	2	0	5	2	2	0	2	20
農業	100.0	80.0	0.0	4.0	12.0	20.0	4.0	8.0	0.0	8.0	0.0	8.0	0.0	20.0	8.0	8.0	0.0	8.0	80.0
漁業（かき・養殖など）	3	2	3	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0	3
100.0	66.7	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0	100.0	
建設業	49	2	2	32	1	9	5	15	1	14	4	0	1	3	0	0	1	1	32
100.0	4.1	4.1	65.3	2.0	18.4	10.2	30.6	2.0	28.6	8.2	0.0	2.0	6.1	0.0	0.0	2.0	2.0	65.3	
製造業（繊維・衣服）	82	4	3	1	72	23	4	3	1	5	1	5	0	11	5	1	2	2	72
100.0	4.9	3.7	1.2	87.8	28.0	4.9	3.7	1.2	6.1	1.2	6.1	0.0	13.4	6.1	1.2	2.4	2.4	87.8	
製造業（食品）	47	2	3	2	3	41	4	8	2	10	1	5	0	14	6	3	2	3	41
100.0	4.3	6.4	4.3	6.4	87.2	8.5	17.0	4.3	21.3	2.1	10.6	0.0	29.8	12.8	6.4	4.3	6.4	87.2	
製造業（機械・金属）	71	1	0	2	3	12	52	9	7	18	5	4	4	5	5	1	2	1	52
100.0	1.4	0.0	2.8	4.2	16.9	73.2	12.7	9.9	25.4	7.0	5.6	5.6	7.0	7.0	1.4	2.8	1.4	73.2	
製造業（造船）	53	2	2	5	0	7	4	2	49	10	2	1	2	1	0	1	2	0	49
100.0	3.8	3.8	9.4	0.0	13.2	7.5	3.8	92.5	18.9	3.8	1.9	3.8	1.9	0.0	1.9	3.8	0.0	92.5	
製造業（自動車関係）	101	5	0	0	5	17	8	19	0	72	3	17	7	26	7	1	5	4	72
100.0	5.0	0.0	0.0	5.0	16.8	7.9	18.8	0.0	71.3	3.0	16.8	6.9	25.7	6.9	1.0	5.0	4.0	71.3	
小売業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
介護	5	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	5
100.0	40.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	
その他	49	0	1	0	7	11	5	6	8	6	9	3	0	10	1	0	4	10	49
100.0	0.0	2.0	0.0	14.3	22.4	10.2	12.2	16.3	12.2	18.4	6.1	0.0	20.4	2.0	0.0	8.2	20.4	49	

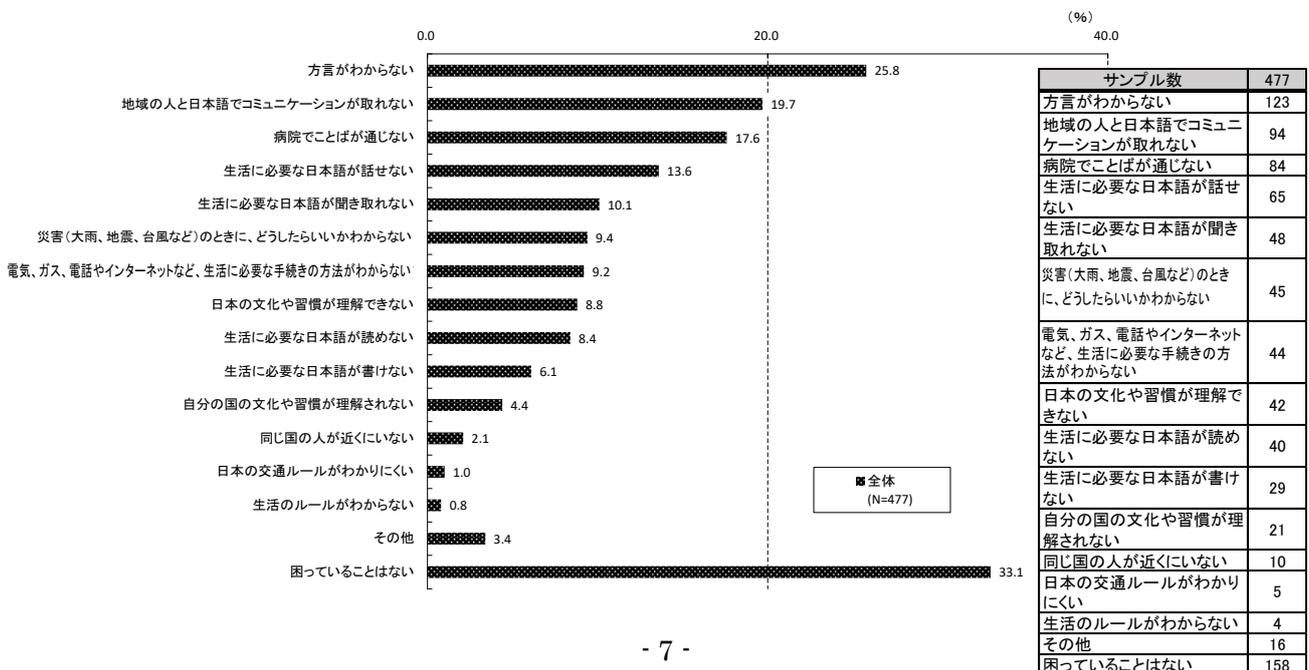
また、上記の業種を希望する理由については、「自分の技術や経験が使えるから」が53.5%で最も高く、次いで「帰国後にやりたい仕事と関係があるから」が44.0%、「いまの会社で仕事を続けたいから」が36.5%となり、実習先と同じ分野の業種で継続して就労を希望する者が多いことが裏付けられた。

	サンプル数	自分の技術や経験が使えるから	帰国後にやりたい仕事と関係があるから	いまの会社で仕事を続けたいから	給料や働いたときの条件がいいから	その他
実数	480	257	211	175	152	32
構成比	100.0	53.5	44.0	36.5	31.7	6.7

(4) 技能実習生の普段の生活状況について

①普段の生活の中で困っていること（複数回答可）

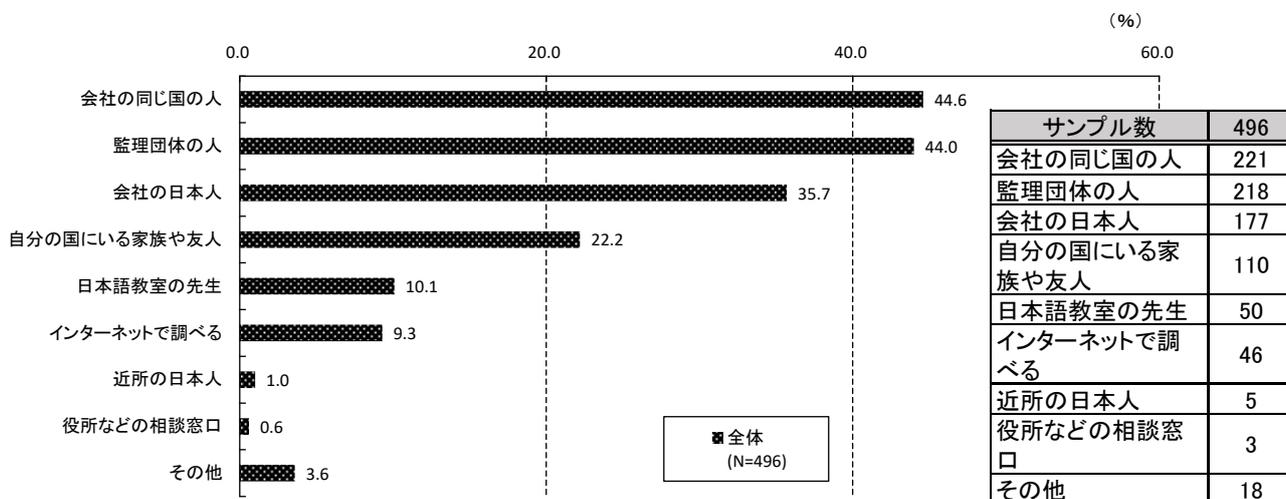
「困っていることはない」が33.1%で最も高くなっている一方で、「方言がわからない」が25.8%、「地域の人と日本語でコミュニケーションが取れない」が19.7%、「地域の人と日本語でコミュニケーションが取れない」が19.7%と高くなっている。



3. 調査結果（技能実習生）

② 普段の生活において困っていることの相談相手（複数回答可）

「会社の同じ国の人」が44.6%で最も高く、次いで「監理団体の人」が44.0%、「会社の日本人」が35.7%となった。



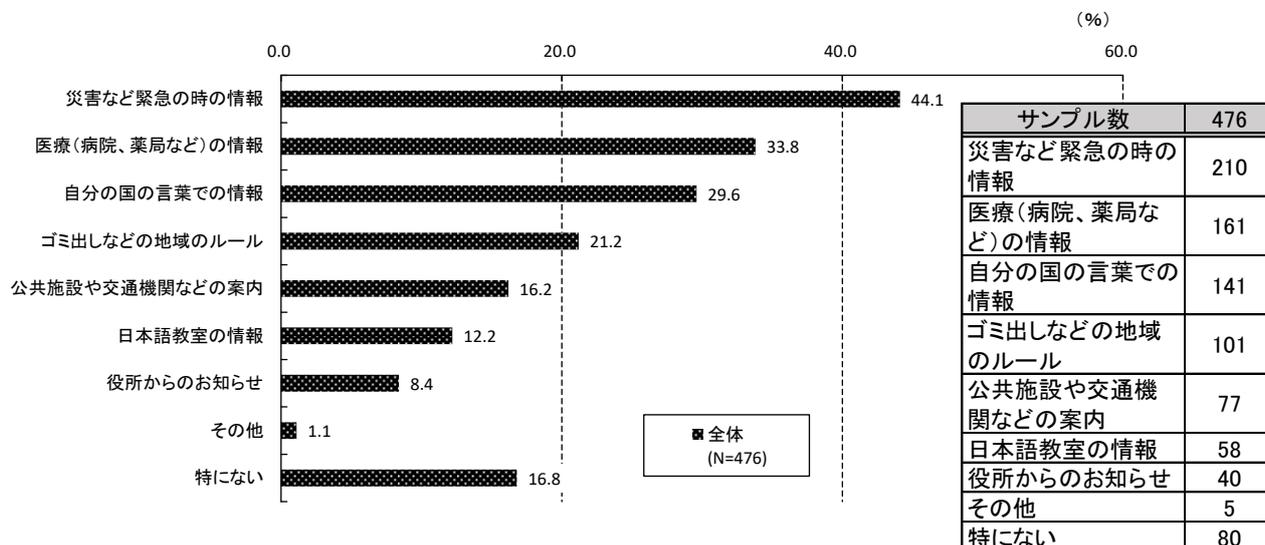
③ インターネット接続機器（スマートフォン等）の保有状況

「スマートフォンを所有している」が75.9%で最も高く、次いで「スマートフォン以外のインターネットにつながる機器」が17.8%、「もっていないが、会社や寮でインターネットにつながる機器を使わせてもらえる」が5.1%で、インターネットを利用できる環境にある人が9割以上となった。

	サンプル数	スマートフォンを所有している	スマートフォン以外のインターネットにつながる機器 (PC)などをもっている	もっていないが、会社や寮でインターネットにつながる機器を使わせてもらえる	もっていない
実数	494	375	88	25	6
構成比	100.0	75.9	17.8	5.1	1.2

④ 普段の生活の中で必要な情報（複数回答可）

「災害など緊急の時の情報」が44.1%で最も高く、次いで「医療（病院、薬局など）の情報」が33.8%、「自分の国の言葉での情報」が29.6%となった。



3. 調査結果（技能実習生）

(5) 日本人との交流状況

①近所の日本人と会話をする頻度

「ある（あいさつをする程度）」が70.0%で最も高いが、「ある（ときどき長い話をすることがある）」は11.0%にとどまり、深い交流がある技能実習生は少数となった。

	サンプル数	ある(あいさつをする程度)	ある(ときどき長い話をすることがある)	ある(困ったときに相談している)	ない
実数	490	343	54	17	76
構成比	100.0	70.0	11.0	3.5	15.5

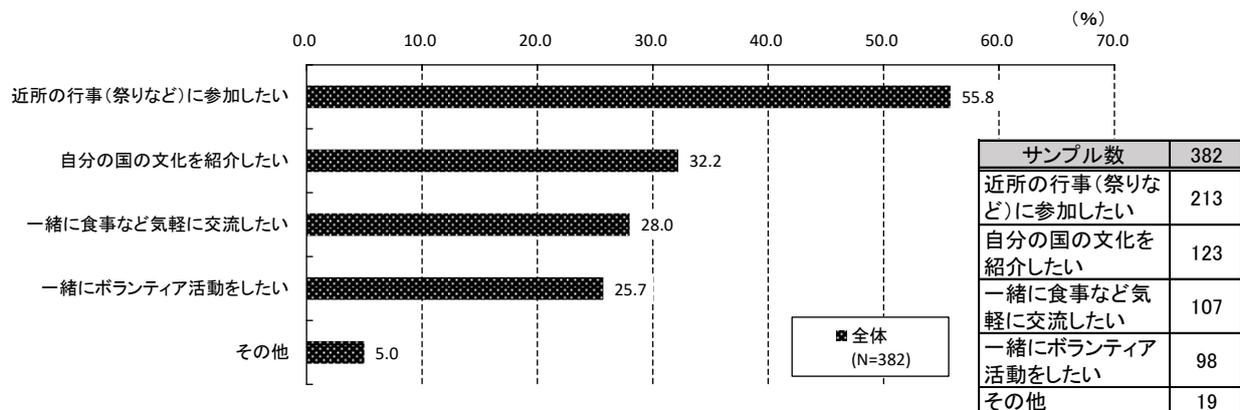
②近所の日本人との今後の交流に対する希望

近所の日本人と今後仲良くなりたいと「思っている」が87.3%で、9割近くの技能実習生が近所の日本人と親睦を深めたいと思っている結果となった。

	サンプル数	思っている	思っていない
実数	481	420	61
構成比	100.0	87.3	12.7

③近所の日本人とどのような交流関係を築きたいか

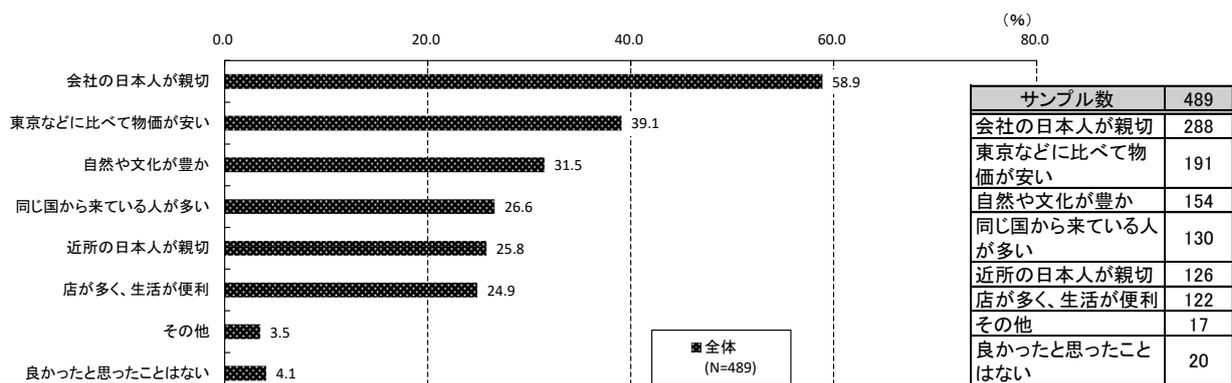
「近所の行事（祭りなど）に参加したい」が55.8%で最も高く、次いで「自分の国の文化を紹介したい」が32.2%、「一緒に食事など気軽に交流したい」が28.0%となった。



(6) 広島県に対する評価

・広島県に住んで良かったと思うこと（複数回答可）

「会社の日本人が親切」が58.9%で最も高く、次いで「東京などに比べて物価が安い」が39.1%、「自然や文化が豊か」が31.5%となった。



4. 調査結果（日本語学校生等）

4. 調査結果（日本語学校生等）

(1) 回答者属性

①性別

	サンプル数	男	女	くそのない・答えた
実数	317	172	142	3
割合	100.0	54.3	44.8	0.9

②年齢

	サンプル数	20歳未満	20歳～24歳	25歳～29歳	30歳～34歳	35歳～39歳	40歳以上
実数	316	50	179	69	14	2	2
割合	100.0	15.8	56.6	21.8	4.4	0.6	0.6

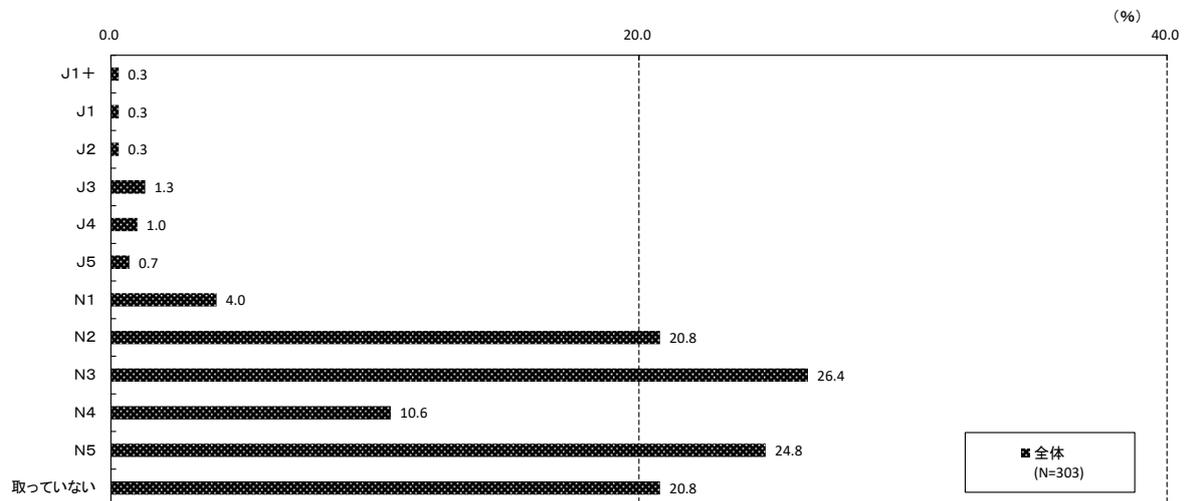
③専攻分野

	サンプル数	日本語	人文科学・社会科学	理学・農学・工学	医学・歯学・薬学	その他
実数	314	255	7	3	6	43
割合	100.0	81.2	2.2	1.0	1.9	13.7

④現在保有している日本語能力に関する資格

サンプル数	J1+	J1	J2	J3	J4	J5	N1	N2	N3	N4	N5	取っていない
303	1	1	1	4	3	2	12	63	80	32	75	63

注：N1～N5は日本語試験 JLPT，J5～J1+はBJT ビジネス日本語能力テストのレベル



⑤アルバイトでの就労の有無

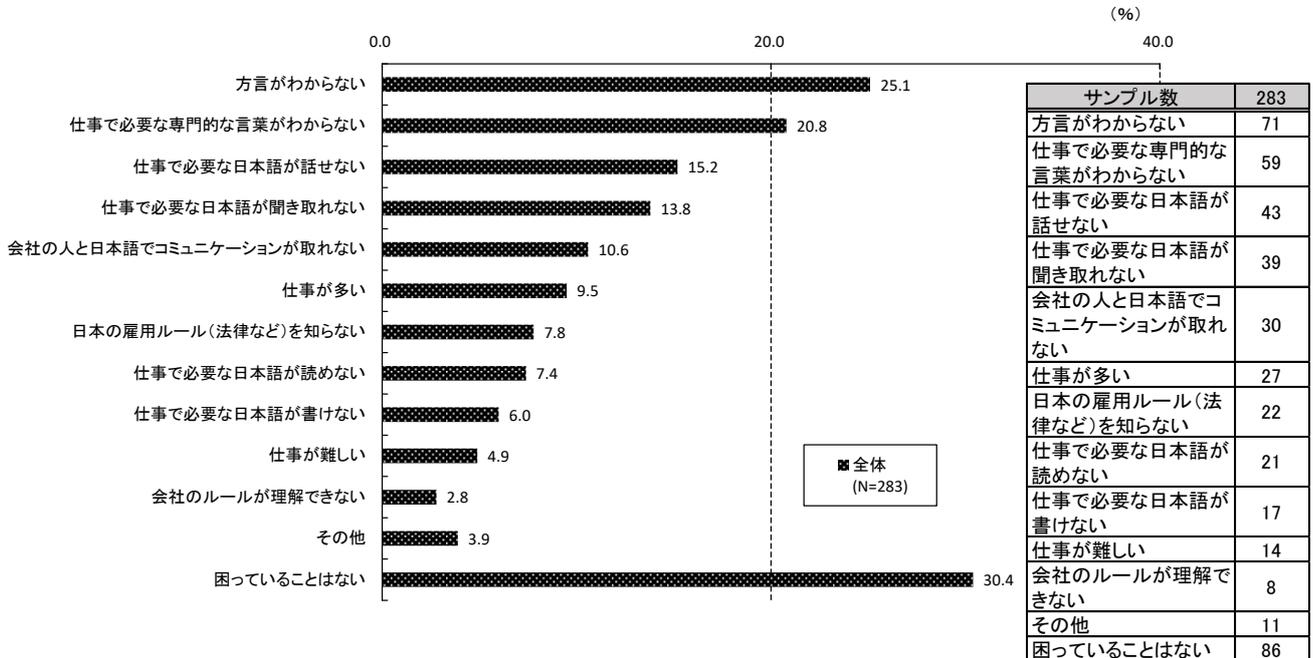
	サンプル数	はい	いいえ
実数	310	290	20
割合	100.0	93.5	6.5

4. 調査結果（日本語学校生等）

(2) アルバイト先における就労環境について

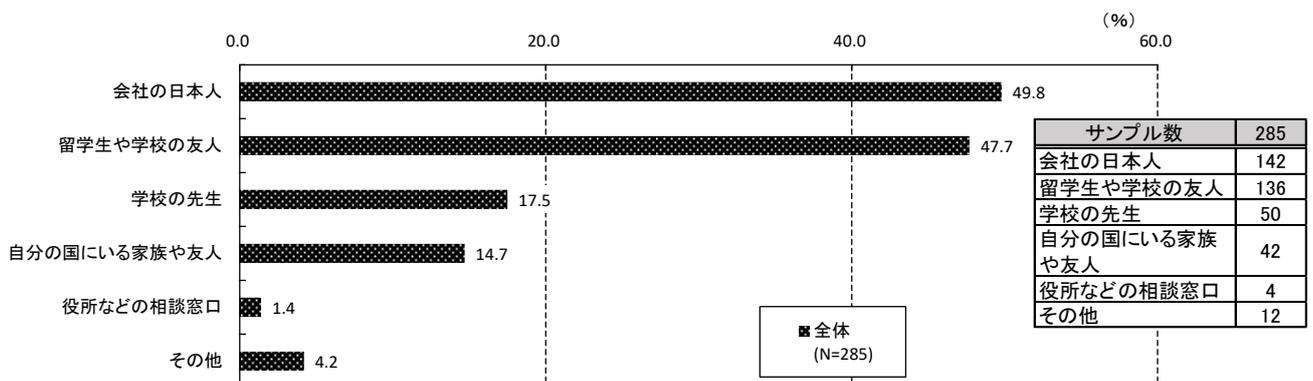
①現在の職場（アルバイト先）で困っていること（複数回答可）

「困っていることはない」が 30.4%で最も高くなっている一方で、「方言がわからない」が 25.1%、「仕事に必要な専門的な言葉がわからない」が 20.8%、「仕事に必要な専門的な言葉がわからない」が 20.8%と高くなっている。



②現在の職場（アルバイト先）で困っているときの相談相手（複数回答可）

「会社の日本人」が 49.8%、次いで「留学生や学校の友人」が 47.7%と高くなっており、他を大きく引き離している。



(3) 修了後の就労において求める条件等

①特定技能の認知度

「知っている」が 57.4%と半数を超えているものの、4割以上の人々が特定技能を認知していないという結果となった。

	サンプル数	知っている	知らない
実数	291	167	124
割合	100.0	57.4	42.6

4. 調査結果（日本語学校生等）

②修了後の就労意向

「できれば働きたい」が94.0%で、卒業後、9割以上の日本語学校生が日本での就労意向があるという結果となった。

	サンプル数	できれば働きたい	働きたくない
実数	302	284	18
割合	100.0	94.0	6.0

③就労する場合に活用したい在留資格（複数回答可）

「専門的・技術的分野」が65.8%で最も高く、次いで「特定技能」が29.5%、「その他の在留資格」が10.1%となった。

	サンプル数	専門的・技術的分野 (技術、人文・知識・国際業務)	特定技能	その他の在留資格	在留資格について知らない
実数	278	183	82	28	25
割合	100.0	65.8	29.5	10.1	9.0

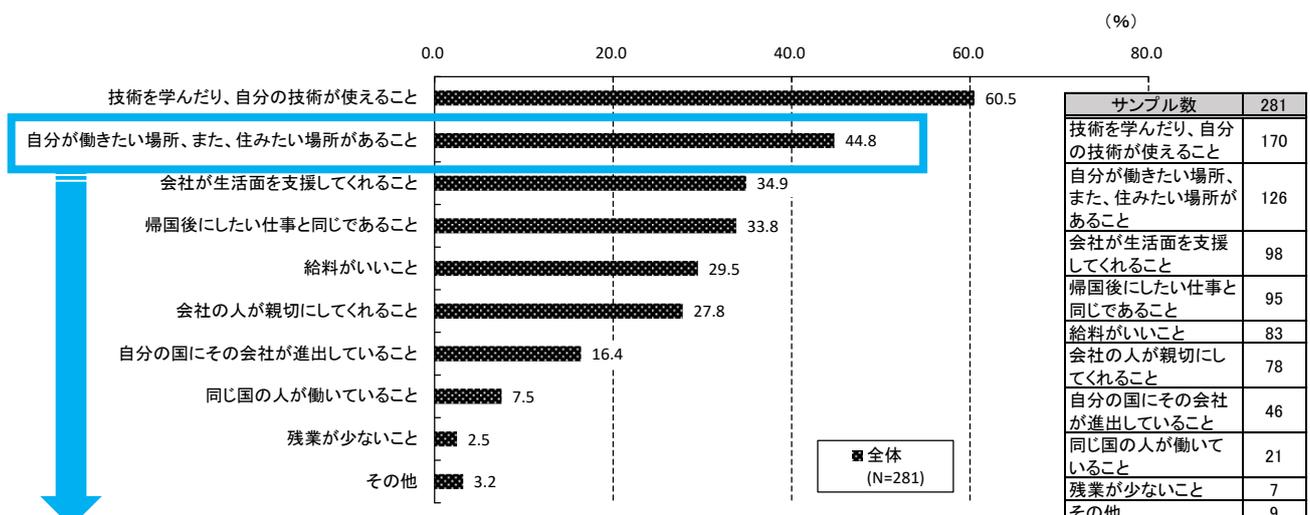
④今後の日本語の学習意向

今後も日本語を「勉強したい」が92.6%と9割を占め、日本語の学習意向は非常に高い傾向にある。

	サンプル数	勉強したい	近くに日本語教室があれば勉強したい	勉強したくない	その他
実数	312	289	16	4	3
割合	100.0	92.6	5.1	1.3	1.0

⑤今後の就労において企業に求める条件（回答は3つまで可）と、就労・居住希望地域

「技術を学んだり、自分の技術が使えること」が60.5%で最も高く、次いで「自分が働きたい場所、また、住みたい場所があること」が44.8%、「会社が生活面を支援してくれること」が34.9%、「帰国後にしたい仕事と同じであること」が33.8%と、上位を占め、「給料がいいこと」（29.5%）を上回った。



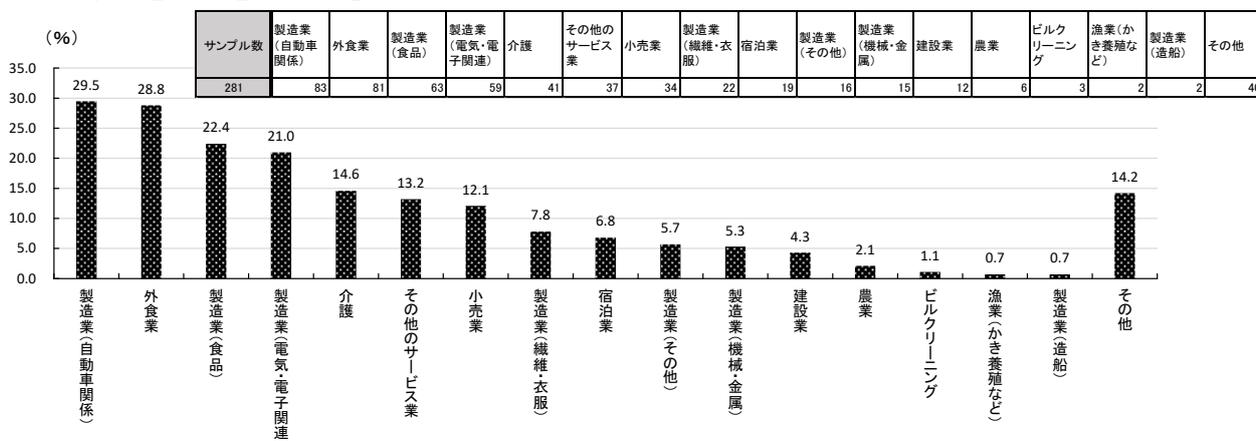
また、就労において企業に求める条件を「自分が働きたい場所、また、住みたい場所があること」と回答した日本語学校生等に希望地域をたずねたところ、「広島県内」が73.2%と、大都市圏を抑え7割以上を占めた。

	サンプル数	広島県内	大阪	東京	その他
実数	123	90	12	10	11
割合	100.0	73.2	9.8	8.1	8.9

4. 調査結果（日本語学校生等）

⑥就労希望職種と希望職種の選択理由（それぞれ回答は3つまで可）

「製造業（自動車関係）」が29.5%で最も高く、次いで「外食業」が28.8%、「製造業（食品）」が22.4%、「製造業（電気・電子関連）」が21.0%となった。



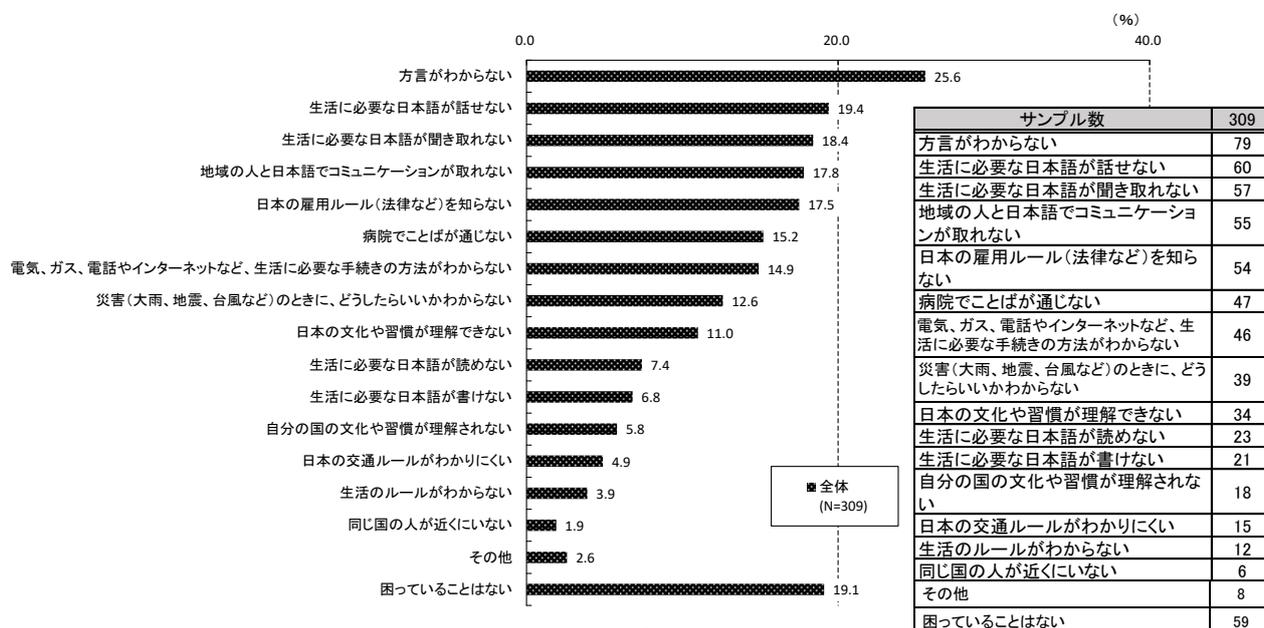
また、上記職種を希望する理由については、「自分の技術や経験が使えるから」が61.7%で最も高く、次いで「帰国後にやりたい仕事と関係があるから」が56.3%、「その分野の日本の企業で、働く経験を積みたいから」が39.4%となった。

	サンプル数	自分の技術や経験が使えるから	帰国後にやりたい仕事と関係があるから	その分野の日本の企業で、働く経験を積みたいから	給料や働いたときの条件がいいから	その他
実数	277	171	156	109	73	7
割合	100.0	61.7	56.3	39.4	26.4	2.5

(4) 日本語学校生等の普段の生活状況について

①普段の生活において困っていること（複数回答可）

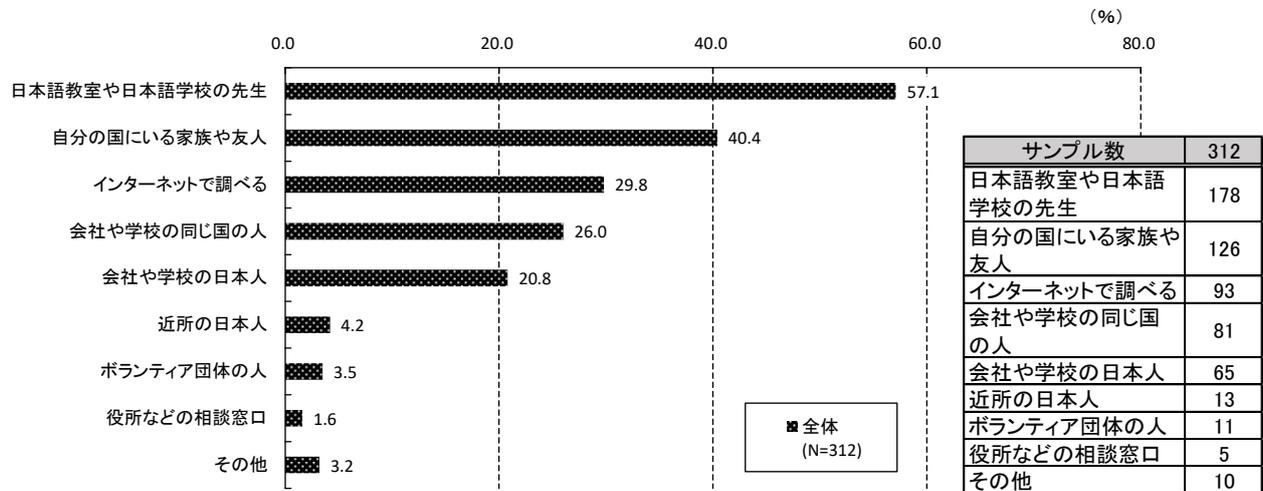
「方言がわからない」が25.6%で最も高く、次いで「生活に必要な日本語が話せない」「生活に必要な日本語が聞き取れない」「地域の人と日本語でコミュニケーションが取れない」などのコミュニケーションに関する項目がそれぞれ19.4%、18.4%、17.8%と困りごとの上位を占める一方、「困っていることはない」との回答が19.1%あった。



4. 調査結果（日本語学校生等）

②普段の生活において困っている際の相談相手（複数回答可）

「日本語教室や日本語学校の先生」が 57.1%で最も高く、次いで「自分の国にいる家族や友人」が 40.4%、「インターネットで調べる」が 29.8%となった。



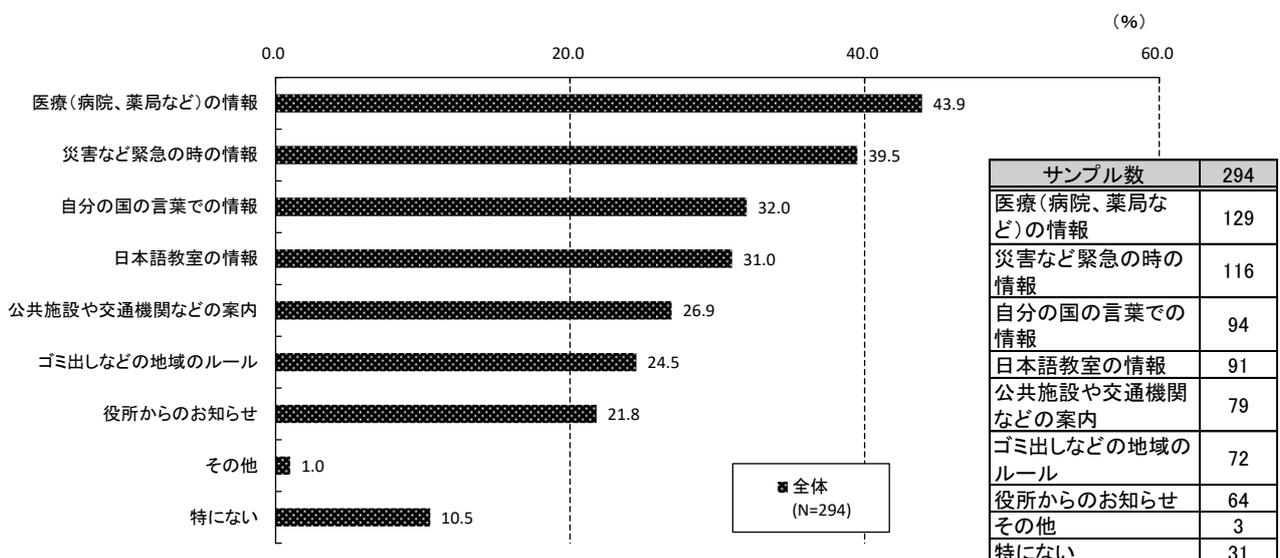
③インターネット接続機器の保有状況

「スマートフォンを持っている」が 77.4%で最も高く、次いで「スマートフォン以外のインターネットにつながる機器」が 16.8%で、学校等での利用機会も含めると 9 割以上がインターネットを利用できる環境にある結果となった。

	サンプル数	スマートフォンを持っている	スマートフォン以外のインターネットにつながる機器 (PCなど) をもっている	もっていないが、学校や会社などでインターネットにつながる機器を使わせてもらえる	もっていない
実数	310	240	52	7	11
割合	100.0	77.4	16.8	2.3	3.5

④普段の生活において必要な情報（複数回答可）

「医療（病院、薬局など）の情報」が 43.9%で最も高く、次いで「災害など緊急の時の情報」が 39.5%、「自分の国の言葉での情報」が 32.0%、「日本語教室の情報」が 31.0%となった。



4. 調査結果（日本語学校生等）

(5) 日本人との交流状況

①近所の日本人と会話をする頻度

「ある（あいさつをする程度）」が53.6%で最も高く、次いで「ない」が23.9%、「ある（ときどき長い話をすることがある）」は18.3%にとどまった。

	サンプル数	ある(あいさつをする程度)	ある(ときどき長い話をすることがある)	ある(困ったときに相談している)	ない
実数	306	164	56	13	73
割合	100.0	53.6	18.3	4.2	23.9

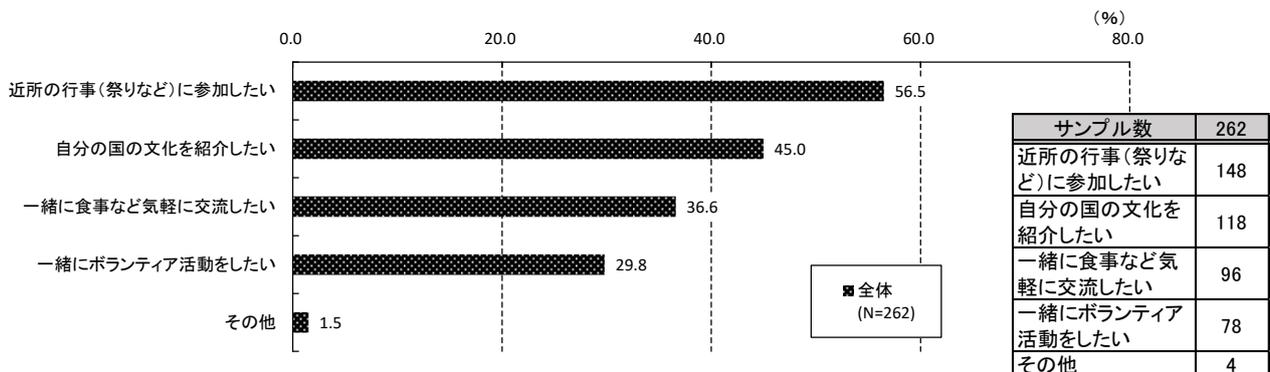
②近所の日本人との今後の交流関係

近所の日本人と今後仲良くなりたいと「思っている」が91.5%で、9割以上の日本語学校生等が近所の日本人と親睦を深めたいと思っている結果となった。

	サンプル数	思っている	思っていない
実数	305	279	26
割合	100.0	91.5	8.5

③近所の日本人とどのような交流関係を築きたいか（複数回答可）

「近所の行事（祭りなど）に参加したい」が56.5%で最も高く、次いで「自分の国の文化を紹介したい」が45.0%、「一緒に食事など気軽に交流したい」が36.6%となった。



(6) 広島県に対する評価

・広島県内に住んで良かったと思うこと（複数回答可）

「東京などに比べて物価が安い」が56.8%で最も高く、次いで「会社や学校の日本人が親切」が48.7%、「自然や文化が豊か」が38.6%となった。

